

## 理科・環境教育助成 成果報告書

第2回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 小林 徳博 所属： 秦野市立本町小学校

課題名： 「もったいない」と思う心を育てる環境教育の推進

### 1. 課題の主旨

本校は、秦野市の中心地に位置し、商業地区、市役所、高等学校、中学校等と隣接している。自然環境には決して恵まれた地域とはいえないが、校舎の南側には昭和初期から植えられた樹木がうっそうと茂っている。森の中には「本町の池」があり、年間を通して子ども達が動植物や魚類に親しむ格好な場となっている。また、道路を挟んだ南側には水無川、学区の北側には葛葉川が流れ、本町小の野外学習地となっている。

生活科・理科・総合的な活動・児童会活動等を通して、子ども達自らが自然環境や生活環境に働きかけ、問題を追及し、よりよい環境の創造や保全のために主体的に行動しようとする態度や実践力を育てていきたい。また、「親しむ活動」、「知る活動」、「護る活動」を通して、ケニヤ共和国環境副大臣のワンガリー・マータイさんが唱える「もったいない」を子ども達・PTA と復権させていきたい。

### 2. 活動状況

#### 【親しむ活動】《本町の森・本町の池や地域の自然と親しむ活動》



1年『花を育てよう』  
一人一鉢の種まきから  
あさがおを育てる



2年『生き物と友だちになろう』  
学区にある葛葉溪谷で生き物  
と遊ぶ



3年『ゆかいな なかま』  
使用済みペットボトルで  
愉快的な顔を作成

#### 【知る活動】《社会科や総合的な学習の時間を通して地域環境や地球環境の現状を知る活動》



4年『ゴミはどこへ』  
市環境衛生課の方からごみ  
の量や収集方法を学ぶ



5年『交通需要マネジメント教育』  
市環境保全課と交通量・CO2の調  
査を実施。賢い車の使い方を学ぶ



5年『地球温暖化の授業』  
気象キャスターネットワーク  
の方から温暖化の原因を学ぶ



6年『市内河川の環境調査』  
透視度・BOD・COD等の  
調査で河川の汚れを調査



6年『秦野たばこ祭に特別参加』  
廃油をローソクに再生し、市の最  
大イベントの「たばこ祭」に参加



6年『テグ小学校と交流』  
姉妹校であるテグ小学校との  
交流のためクリーン作戦を実施

### 【護る活動】《児童会・PTA活動によるリサイクル運動の推進》



『児童朝会「エコ委員会」の活動』  
リサイクルの流れを説明する環境  
委員会の児童



『月2回のリサイクルデー』  
全校の児童が家庭からアルミ  
缶や牛乳パックを持参



『PTAによる特別授業』  
4年のごみの授業の発展とし  
てリサイクルについて学習



『本町の池 復活大作戦』  
EM菌を活用した本町の池  
の清掃を実施



『PTAによる資源回収』  
17年11月：11,996kg  
18年 5月：11,493kg



『不要品を扱ったPTAバザー』  
家庭で不要になった品物を扱った  
バザー、児童も販売等に協力

### 3. 結果

- ・「親しむ活動」では、自然の不思議さ多様さを十分味わわせることが環境問題に関心を持たせる基礎となることを再確認することができた。
- ・「知る活動」では、地域の河川環境調査、地球温暖化の授業、秦野市の交通量・環境測定等、具体的な活動を通して、自分たちの生活が環境に負荷を与えていることを知ることができた。
- ・「護る活動」では、児童会やPTAのリサイクル活動を中心におこなった。「もったいない」という心を育てるには、PTAの方々の授業の講師になって頂いたり、PTAのバザー等の運営に児童が関わったりする中で育ってくるものだと実感した。

### 4 今後の課題と発展

環境教育を推進するには、児童に自然の不思議さ多様さを十分味わわせ、環境に対して敏感な感性を育てることが大切である。また、児童の日常生活を見直し、「自分たちにできることは何か」を考え、家庭・地域とともに実践をしていくことが大切である。